

もう一度、自分の足で歩きたい！ 自立歩行が可能になるまで

車椅子から歩けるように。

趣味は登山、太極拳と活動的だったH様は、急性硬膜下血腫術後は全介助の状態になり、身体的、精神的につらい日々を送られていました。端座位の保持を5分間できることを初期の目標に設定、目標達成度に合わせ、筋力向上練習を多く取り入れていきました。体調不良により、前回出来たことが今回出来ないということもあり、気落ちすることもありましたが、ご本人の気持ちを汲み取った声掛けを図ることで、意欲的になり、目標に向けて前向きに取り組むことが出来ました。中期目標は、立位保持・手引き歩行とし、意欲的にリハビリ(施術)に取り組みました。今後は、「杖なしで歩きたい」

「趣味だった登山もしたい」との目標に向かって施術計画を立て、歩行能力の向上を図っていきます。



東城北営業所
瀧川相談員

小さな目標設定と声掛けで、着実な成果を導き出す。

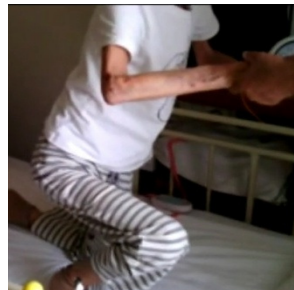
今回のケースは、ご本人の気持ちを汲み取った声掛けを図り、目標設定を小さくすることで、ご利用者が達成感、満足感を持つことができ、身体的能力の向上に取り組んできた事例です。また、ニーズを的確に把握し、施術計画を立て、インフォームドコンセントを常に行うことで、信頼関係も築くことが出来ました。その結果、ご利用者は、積極的に自主運動に取り組み大きな回復をみる事が出来ました。この回復結果を出した経緯に焦点をあてました。



バランス感覚を養う為の練習



サイドテーブルを使用し、スクワット



ベッドでの片足出しの練習
フット

〈初期目標〉

立位保持
手引き歩行

〈中長期目標〉

一本杖による安定した歩行
(見守りなし)

〈治療内容〉

筋力低下が著しい症状がみられたので、筋力向上の練習を多めに取り入れながら、バランス感覚を養う座位のバランス練習も行いました。具体的には、初期施術として、全身マッサージ、関節運動法、両下肢屈曲運動法など促通法を実施。次に、側臥位での頸肩部マッサージのほか、端座位からの立上がり、立位で足踏み、立位で屈伸、杖による歩行、手引きでの横歩きの練習や杖による歩行練習を行いました。

ご利用者情報 S・H様(87歳 女性) 傷病名: 頸椎症、急性硬膜下血腫、 脳梗塞による視野欠損

右急性硬膜下血腫術後は全介助で筋力低下が著しい状態でした。リハビリを行いたいという希望がありながら、入所施設では、運動等のリハビリは行っており、筋力低下、座位保持が困難な状態でした。



新井施術師
下、座位保持が困難な状態でした。

ご利用者の初期のニーズ

一人でトイレに行きたい。
 トイレで移乗介助を受けた時、慣れないヘルパーの介助に不安を覚え、トイレに行けるようになりたいと、日常生活の自立やADLの向上を強く希望されていました。

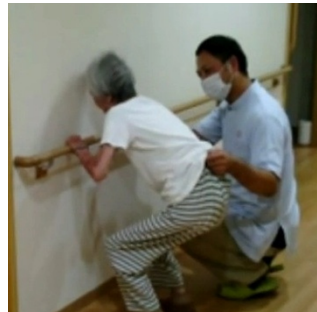
ご利用者の声
 一人でトイレに行けるようになり、本当に良かったです。病気で倒れ、1年前は症状が重く、まさかこゝまで回復するとは思いませんでした。マッサージだけでなく、リハビリもしていただけるので感謝しています。



現在は杖による自立歩行ができるように



途中、歩行器による歩行ができるように



自立歩行を目指した立ち上がりの練習